

郷土を知る
むかしむかし

昔々の

冊

そお市

生涯学習課 文化財係 ☎ 0986-76-8873

第72回



製鉄の歴史 ～花房製鉄所跡～

鉄

『鉄』の惑星』とも呼ばれる地球には無尽蔵の鉄が包蔵されていますが、自然鉄はほとんど存在せず、多くの場合は酸化物や化合物の状態で産出されます。鉄を利用するには製鉄を行い、さらに精錬し純度を高める必要があります。

人類の鉄の利用は紀元前3000年頃から確認されており、初期のものは宇宙からもたらされた隕鉄を加工していました。その後、人工的な製鉄が紀元前2000年頃のヒッタイト（現在のトルコ）で始まり、世界中に技術が広がっていきます。日本には弥生時代中期に朝鮮半島を経由して鉄製品が持ち込まれ、古墳時代中期以降には、砂鉄から製鉄を行う独自の踏鞴製鉄が確立していきます。良質な鉄資源が豊富な日本ではいたる所で製鉄が行われ、鉄加工の技術が昇華し、世界に類を見ない鉄製品を誕生させていきます。

末吉町南之郷新田山地区の安楽川支流の花房川沿いには、明治時代初頭まで製鉄所がありました。花房製鉄所と呼ばれており、志布志の海岸で採取された砂鉄を搬入し、薪が豊富なこの地で製鉄を行っていました。鉄材はおもに都城に売り出されていましたが、末吉や岩川の鍛冶屋さんも買いに来てい



花房製鉄所跡

たと記録が残っています。現在でも一帯には、製鉄時に発生する鉄滓（鉄クズ）が大量に残されています。花房製鉄所がいつから製鉄を行っていたのかは明確な記録が無く不明ですが、昭和33年の調査で鞴の羽口が見つけられました。製鉄時に火力を高めるために土製の送風管で、長期的な被熱により先端が熔けてガラス化しています。市内でも中世の遺跡から同様の羽口がまれに出土することから、花房製鉄所は1000年ほど前から運営していたと考えられます。近代以降には製鉄は工業化され、鍛冶なども遠い存在になってしまいました。花房製鉄所跡は、はるか昔から生活や仕事を支えてきた大切な産業の遺跡です。

曾於市史編さん情報局

まだまだ資料を探しています。各校区や自治会（集落）のことが記された昔の書類や記念誌・写真などは当時のことを知るうえで貴重な資料です。ぜひ、ご提供ください。

※提供頂いた資料はお返します



鞴の羽口と鉄滓（末吉歴史民俗資料館に展示中）